旧長若小学校利活用に関するオンラインでの意見募集
【開催記録】

１．開催期間
令和８年８月２４日～９月２４日迄（３１日間）
※町 HP 上で意見募集を実施

２．意見等と回答

意見等	・長若地区には、既に廃校した長若中学校に長若集学校が事業を開始した、当初の事業計画を期待したが現状は満足できるものではない。正反対に廃校した三田川小学校を借りたグループは、既に地元の皆さんと一緒に様々な事業を実施している現状を見ると成功例と言える。 長若地区は、コミュニティ事業・休養村・しだれ桜・移住者や芸術家の定住など地域資源が豊富なことから、地域の皆さんと一緒に考え活動できる拠点に長若小学校を活用すべきだと思います。 もう一つの観点として、東京笹塚仲町会のように震災により都内での生活・事業活動が危ぶまれていることから、積極的に小鹿野町と交流している。そこで笹塚仲町会を通じて中小企業対象にアンケート調査を実施して大きな震災によりマヒする都市の皆さんから事業継続の意識を調査する。小鹿野町にサブのオフィスを設け、震災後も事業を継続できる体制を整えたい事業者を確認できれば、一括貸し出しだけにこだわらず､小分に借出すことも可能だと思う。従って一括廃校を借りて小さな事業者へ貸し出す事業者を募集することも前提に募集する。例：宅建業者に一括して貸出し、借り手を募集してもらう。以上の観点から、応募者があるかないかは未知数だが、今後どのような地域の活性化を満たしてくれる借り手の契約が望ましい。 急いで貸し出しを募集する必要もなく、地域・町民の皆さんと活用を検討する場を設けるべきである
回答	・ご提案の趣旨は、旧長若小学校を単に貸し出すのではなく、地域資源を生かし、地域住民と事業者が継続的に活動できる拠点とするものと受け止めています。町の空き公共施設利活用事業は、地場産業の振興、新たなビジネスの創出、雇用機会の拡大を通じて、地域課題の解決や人口流出の抑制を図ることを目的としています。そのため、笹塚仲

	町会との交流を生かした事業継続ニーズの把握、施設の分割利用や複数事業者による活用などのご提案も、実現可能性や管理運営上の課題を含め、検討に値するものと考えます。一方、廃校施設は地域にとって身近で象徴的な財産であり、町としては、住民説明会や意見募集を通じて地域の意向を丁寧に確認するとともに、提案内容、収支計画、継続性、地域への波及効果などを慎重に見極める必要があるものと考えています。 　小鹿野町として、制度面や施設管理の責任区分の明確化、地域との連携方法も整理した上で、将来にわたり主に長若地区から、ひいては町全体へ将来にわたり波及的効果が見込めるような活用となるよう、拙速に進めることなく取り組んでまいります。